

親（家族）と子のところをつなぐ「家読（うちどく）」のすすめの推進について

1 趣旨

伊万里市では、平成18年12月5日に「いじめなし都市宣言～思いやりの心あふれるまちづくりを通して～」を宣言しました。

これは、「いじめ」をはじめ、子どもたちの心に起因する諸問題が社会の大きな問題となっていることから、子どもたちのいじめのない豊かな心をはぐくむことを重点に「思いやりの心あふれるまちづくり」の推進に努めることを通して、「伊万里」の将来を担う子どもたちの心豊かな成長を促すという取組です。

この「思いやりの心あふれるまちづくり」を実現するためには、親子の会話のほずむ子どもたちの心の居場所としての温かな家庭の存在が不可欠です。

しかし、昨今、家庭での親子の会話の減少が指摘されています。親子の会話は子どもたちの心の成長に大きな影響を与えます。同じ空間にしながら、各々が個々別々に過ごすという家庭では、共通の話題も生まれず、親子の会話もはずみません。

そこで、伊万里市においては「親（家族）と子のところをつなぐ『家読（うちどく）』のすすめ」を展開します。家庭において親子で本に親しむことを通して、同じ空間で同じ時間を共有し、本について語り、親子の思いを交流する。このことをきっかけに、家族のきずなを確かめ、深めていくことが、子どもたちの心の居場所としての温かな家庭に、さらには「思いやりの心あふれるまちづくり」につながることをねらいとします。

「家読（うちどく）」とは

「家読（うちどく）」は家族で読書の習慣を共有することです。基本は家族みんなで好きな本を読んで、読んだ本について話すことです。

難しいルールはいりません。

同じ本をみんなで読めば、家族の会話もいっそうはずみます。また、お互いに本をすすめ合ったり、家族そろって本を選ぶなど、読む本を相談しあうことでコミュニケーションが深まります。

2 基本施策

- (1) 推進開始日 平成19年6月1日（金）
- (2) 市内幼稚園・保育園、小中学校、PTAにおける「家読（うちどく）」の推進
市内の各教育機関、PTAによる主体的な「家読（うちどく）」の取組を促す。
- (3) 「家読（うちどく）」でつくる思いやりの心あふれるまちづくりの推進
黒川町をモデル地域に指定する。
幼稚園・保育園・小学校・PTA・公民館が連携し、「家読（うちどく）」を推進し、その成果を市内に広げる。